

第9回遺伝子組換え農作物等の研究開発の進め方に関する検討会 (議事概要)

1 日 時：平成19年12月17日(月) 14:00~15:00

2 場 所：農林水産技術会議委員室

3 出席者：別紙参照

4 議事概要：

事務局から配布資料「最終取りまとめ(案)」の説明が行われました。出席者からの主な発言は以下のとおりでした。

- ・ダイズなどイネ以外の作物では形質転換体を作るところが難しく、形質転換を普遍的な技術として、種々の作物で効率的にできることが望ましい。そういった技術をもった人材を育成するシステムや形質転換体を作る組織的な対応が重要。また、現時点においては、種々の作物について、技術を持っている研究者を把握しておくことも重要。
- ・これまでのように、今ある技術をステップアップさせるだけの研究では米国やヨーロッパとの差は縮まらない。10年後、20年後に向けて、どのようなバイオテクノロジーを興していくのか、ゴールを考えておくことが大事。
- ・知財について、GMO 実用化を目指す場合と基礎研究の場合とでは必要な情報が全く異なる。実用化に対応できる目利きの役割は重要。
- ・研究者の立場から、本検討会の取りまとめは励みになる。今後の工程管理について、年ごとにチェック、フォローアップする機能が重要。
- ・今後中国やヨーロッパを含め世界的にバイオテク作物の開発が盛んになると予測される。バイオテク作物に関する国際的なスタンダードやルール作りの場に、今後とも積極的に我が国の研究者や行政官を送り込んでいく必要があるのではないか。

(別紙) 委員の構成

(五十音順、敬称略)

有田 芳子 主婦連合会環境部長

石井 茂孝 キッコーマン株式会社顧問
(財)野田産業科学研究所副理事長兼専務理事

内宮 博文 東京大学分子細胞生物学研究所教授
(財)岩手生物工学研究センター所長

貝沼 圭二 農林水産技術会議委員
元 国際農業研究協議グループ(CGIAR)科学理事会理事

小池 一平 全国農業協同組合連合会営農総合対策部長

篠崎 一雄 (独)理化学研究所植物科学研究センター長

武田 和義 岡山大学資源生物科学研究所所長
日本学術会議会員

田畑 哲之 (財)かずさDNA研究所副所長

廣塚 元彦 不二製油株式会社研究開発本部フードサイエンス研究所所長

三石 誠司 宮城大学食産業学部教授

山本 和子 フリージャーナリスト
(有)農業マーケティング研究所所長